

Title	The McKinley and Roosevelt administrations, 1987-1909. By James Ford Rhodes
Sub Title	
Author	恒松, 安夫(Tsunematsu Yasuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1924
Jtitle	史学 Vol.3, No.2 (1924. 8) ,p.181(342)- 182(343)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19240800-0182

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

惜しまざらんや。吾等は著者と共に眞なる歴史學の成立する時には此の世界は今日よりもつと善くなるであらうといふことを信じ且つ希望する者である。

(山本光郎)

The McKinley and Roosevelt Administrations, 1897—1909.

By James Ford Rhodes.

New York. 1922.

James Ford Rhodes 博士の History of the United States Since the Compromise of 1850. 全八巻の大著述は一八五〇年以來の合衆國史を主として經濟上並に社會上より記述したものであつて合衆國史を研究せんとする者に取つて頗る價值あるスタンダードワークである。同博士は此他に History of the Civil War 1865. を著し地方的偏見を無視して合衆國史の一轉期たるこの大内亂を極めて公平に記述してゐる。著者の歴史家としての優秀なる才能は既に此等の著作によつて定評がある。今茲に大作合衆國史の續編とも見るべき本書が現はれた。

著者は一八四八年オハイオ州のクリーブランドに孤々の聲をあげ大學教育を終へて後渡歐し主として冶金學を終め傍ら新聞學を研究した。歸國後一八八五年迄父の鐵工業に従事し相當の富を蓄積して後合衆國史著述の大事業に着手し一九一九年最終編たる第八巻が完成するまで三十四年の間尊敬すべき努力を以つて終始した。

本書は元來合衆國史の第九巻となすべきが當然であるが著者が故意に之を避けたのは本書が前者と全然相違せる見地より記述せられたるためであるらしい。即ち前者が主として經濟史的社會史的なるに反して本書が純然たる政治史的外交史的彩色を有するに因ると思はれる。されど本書に含まれてゐる時代は是迄全然對外的に孤立してゐた合衆國が従來の傳統を棄て、對外的に大發展をなした時代である。それだけこの時代の歴史は政治上外交上の重大問題を主要素となしてゐるのであつてこれは當然のことである。著者が故意に卷を改めたことは些々たる事柄であるとは云へ其處に時勢の推移によつて歴史の叙速を變更せらるゝことを暗示せんとする著者の意の存する所を窺ふべきである。

歴史家が其時代を記述することは一面正確なる史實を傳へ得る利益が存すること共に他面に於ては歴史家自身の主觀其他の私上の事情のために公平なる觀察を誤まる懼れあることは否み難い事實である。

著書はマツキンレー大統領の一大背景的人物であつて合衆國政界に陰然大勢力を振つてゐたハンナと姻戚關係を有し且つ傑出せる文才を有せしため政界の重要人物中に多數の知己を得マツキンレーが就任する以前に既に合衆國史三巻を著して國史家としての重要な地位を贏ち得てゐた。

本書の約四分の三は國策と戦争と外交問題の記述に費され殘餘の頁は主として主要人物の紹介に費されてゐる。彼が史上の大立物として本書に詳述してゐる人物即ちマークハンナ、マツキンレー

ト、ヘーイ、ルーブズエルト、ルト、ロツヂ、タフト、モルガン
ロツクフェラー、カーネーギー等は一二の例外はあるにしても殆
ど悉く共和黨の大勢力か或は同黨と密接なる關係を有してゐた富
豪である。吾人は本書を読んで特殊な感興を覺えた點が少なくな
かつたが就中感興を覺えた點は吾人が從來他書を読んで知つてゐ
たマーク、ハンナの人爲と本書を読んで知つたマークハンナが
著しく相違せる點であつた。從來多數の歴史家はマークハンナを
腐敗政治家の巨魁を以つて目してゐた本書の著者は從來の誤解
(假りに誤解されてゐたことすれば)を一掃することが出來た。著者
が彼と義兄弟であつたといふ事實は著書のこの努力に多少の不利
を與へてゐることは云え著者はハンナと共に非常なる好意を寄せて
ゐたマツキンレーがキューバ問題が燃焼して米西間の關係が危機
に臨んだ際に輿論を顧みず優柔不斷に陥つてゐた事を赤裸々に記
述してゐるのを見れば著者の説を一概に依怙的と見做し得ぬかも
知れぬ。されど讀者に一個の疑問を與へる點は著者は何故一八九
六年より一九〇〇年に至る迄の民主黨の大立物たるブライアンに
關じて多言を費さないかといふ點であるブライアンは數回民主黨
の大統領候補に立ち武運拙なく敗れたことは云へ彼の閱歴は決して
輕視すべからざる重要なものである。讀者は本書を読んでマー
クハンナの詳細なる閱歴を知り得ないことを遺憾に思ふに相違な
いのである。此と同様なことがラフォレットやロツクナーに就い
ても云ひ得るのである。

著者自身は或は黨人であつたかも知れないが本書が黨派的偏見

を以つて書かれたものとは思はれない。前述せし如く本書は政治
外交を主として記述せるものなるが故に政府黨に比し在野黨の主
要人物の記述が比較的除外せられたのは亦止むを得ない次第であ
る。

本書の著者は批判を避けて出來るだけ事實を詳細に傳へんこと
を主眼としてゐる。著者が稀に見る多數の自叙傳記を引用してゐ
る點も一個の特色をなしてゐる。吾人は本書を Beard 博士の
Contemporary American History と比較對照して讀まば一つは經
濟社會問題に重きを置き他は政治外交に重きを置き故互に遺漏
を補ひ得て完全なる合衆國現代史を知ることを得るであらう。

(恒松安夫)